

都市再生整備計画(第4回変更)

こ が ちゅうおう ち く
古賀中央地区

(地方都市リノベーション事業)

ふくおか こ が し
福岡県 古賀市

平成26年12月

・様式は、A4長辺側を、2箇所ホチキス留めすること。

様式1 目標及び計画期間

都道府県名	福岡県	市町村名	古賀市	地区名	古賀中央地区(地方都市リノベーション事業)	面積	21	ha							
計画期間	平成	24	年度	～	平成	28	年度	交付期間	平成	24	年度	～	平成	28	年度

目標

- 生涯学習推進ゾーンを整備することにより、市民の生涯学習活動を活性化し、こころ豊かに学び続ける人を育て、人や地域がつながり支え合うまちづくりを進める。
- ・公共交通の利用と連携した中心市街地の活性化
 - ・各年代の市民の生涯学習の核となる集い・学び・交わりの場の提供【(仮称)古賀市生涯学習センター(地域交流センター)】
 - ・市民への安全、快適な利用環境の提供【駐車場整備、進入路・周辺道路整備、施設配置の見直し、既存施設の耐震化推進】

目標設定の根拠

都市全体のリノベーション方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用を考え方を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るためのリノベーション方針)

古賀市は、様々な公共施設や病院、商業施設等の都市機能が拡散して配置され、「施設間の移動手段がない、少ない。」「移動に時間がかかる。」等の市民の声が多数寄せられている。それらの課題や、これからさらに進行が予測される高齢化に対応するため、古賀市では平成24年度からスタートした第4次古賀市総合振興計画に、「JR駅周辺の整備や利便性の向上などにより駅前の活性化を図りながら、JR駅を拠点とした“歩いて暮らせるまちづくり”を進めます。」と土地利用の方針を示し、都市機能を分散させず、JR駅周辺に集約したJR駅を拠点としたコンパクトシティづくりを推進している。その方針に基づき、市内JR3駅(ししぶ駅、古賀駅、千鳥駅)へつながる東西幹線道路の整備を推進するとともに、市内を走る西鉄バスは、市内のどの場所からもJR駅へと向かうようルートを設定する等市内交通網の整備に取り組んでいる。その中でも、JR3駅の中間に位置するJR古賀駅周辺は最重要拠点として整備を行うこととしているため、JR古賀駅東側の中心市街地を生涯学習推進ゾーンと位置づけ、サンフレアこが(図書館、歴史資料館)、リーパスプラザ(中央公民館)、生涯学習センター(地域交流センター)等施設や周辺道路を集中して整備し、都市機能の拡散の防止と公共用地・施設の有効活用に取り組むことで、市民の生涯学習活動の活性化を図るとともにコンパクトシティづくりを推進する。また、風水害や地震等の災害危険性と防災にかかる課題等を把握し、安全で安心な地区の構築を進める。

まちづくりの経緯及び現況

古賀市は九州の中核都市である福岡市と北九州市の間に位置し、南北にJR鹿児島本線(古賀駅、千鳥駅、ししぶ駅)、国道3号、国道495号が並走し、九州自動車道の古賀インターチェンジが位置するなど交通の要として発展している。計画的な工業団地の整備や企業誘致により、県下9位の製造品出荷額、県下6位の従業員数であり、職(勤務地)と住(居住地)が近接したまちである。(平成22年工業統計調査による)古賀市の人口は約59,000人であり、46の行政区があり、それぞれに行政区長、公民館分館長、分館主事が配置され、さまざまな生涯学習活動が展開されている。生涯学習推進ゾーンは、JR古賀駅より徒歩5分という立地であり、約30,600m²の区域には、リーパスプラザ(中央公民館)、リーパスプラザ研修棟、サンフレアこが(図書館、歴史資料館)、市立球場、市民体育館、弓道場が設置されている。ゾーン全体の平成23年度の利用者数は、約496,000人である。古賀市公民館運営審議会は平成21年度(2009年度)に中央公民館館長から「今後のリーパスプラザ(古賀市中央公民館)運営のあり方について」の諮問を受け、平成22年度に答申を提出している。その中で、ゾーンについて、研修棟の耐震化の問題やエレベーターがないこと、駐車場に大型バスが入れないこと、駐車場のスペースが狭くて危険なこと、市立球場の一部を駐車場として使用することが好ましくないことなどがあげられていた。第4次古賀市総合振興計画(2012～2021)の中で、「社会教育の振興」「良好な市街地・住環境の形成」「交通環境の形成」を政策として掲げており、中心市街地の機能再構築、郊外への拡散防止、公共交通の利用促進に取り組んでいる。また、リーパスプラザやサンフレアこがなどは生涯学習推進の拠点として位置づけられ、研修棟の建設を含めリーパスプラザ周辺の整備に着手することとしており、市保有用地の有効活用、施設機能の再構築を考慮し計画を進めたい。

課題

- ・中心市街地の生涯学習推進ゾーンの拠点として、市民の学習意欲の高まりにより、社会教育関係施設、用地の有効活用や機能の充実、再構築が求められている。
- ・リーパスプラザ研修棟は建物が老朽化しており耐震性のある施設への建替えが必要である。各部屋が使用目的に応じた構造になっておらず部屋の規模や内装、設備の整備(防音設備、間仕切り、ギャラリ機能など)が必要である。
- ・既存図書館においては蔵書スペースが手狭になっており、増床によるサービス、利便性の向上が望まれる。
- ・中心市街地の市道の一部では幅員が狭く、歩道の整備も不十分であり、安心して歩ける歩行者空間の見直しが望まれている。
- ・ゾーン周辺道路において道路排水が不十分な箇所があり、地下に水路を設置することで道路の機能を高め社会基盤を整備し、併せて浸水対策を行う必要がある。
- ・生涯学習推進ゾーン周辺の道路においては、幅員が狭く、歩道が未整備な箇所が多数存在しており、道路排水機能の向上が必要な箇所もある。また、JR古賀駅東口においては雨天時利用者が濡れ、足元も危ないため改善が求められている。
- ・リーパスプラザのホール天井や、サンフレアこがのエレベーターについては、構造、機能が現在の耐震基準に適合しておらず、耐震対策が必要である。

将来ビジョン(中長期)

- ・平成24～27年度に(仮称)古賀市生涯学習センター(地域交流センター)及び周辺施設整備事業を位置づけ、平成28年度グランドオープンへ向けた設計、工事等を予定している。
- ・道路事業の実施を平成24～28年度に行う予定で、事業が完了する平成28年度に事後評価を行う。

リノベーション事業の計画

都市機能配置の考え方

中心市街地の古賀駅東側では、これまでリーバスプラザや図書館などを拠点として、市民の社会教育活動を支援するとともに施設の有効活用や機能の充実に取り組んできたが、施設ができて30年が経過しており、利用者の活動についても伸びやかなりの状況にある。

現在、市所有地である生涯学習推進ゾーンの敷地内に、リーバスプラザ(研修棟、ホール棟)、サンフレアこが(図書館、歴史資料館)、市立球技場、市民体育館、弓道場が配置されているが、この敷地内において施設の再配置、再構築を行うことで、利便性の向上、利用者の増加を図る。

具体的には、サンフレアこが(図書館)の増床、エレベーターの耐震化を行い、その他施設についてもつながりを考え一体的に整備を行うことで、効果を促進させる。また、古賀駅を中心とした商店街や教育施設等においても、人の流れを増やし活気や賑わいに満ちたまちづくりにつなげたい。

生涯学習推進ゾーンの敷地内施設の再配置の内容は、リーバスプラザホール天井の耐震対策実施、リーバスプラザ研修棟について地域交流センターとして建替え、地域交流センター駐車場・外構整備、弓道場は撤去し古賀中学校の弓道場を開放することで利用を継続、屋外トイレの整備、などである。

目標を達成する上で必要な「地方都市リノベーション推進施設」「生活拠点施設」の考え方(民間事業者による事業継続の見込みや民間事業に対する行政の支援等を含む)

JR古賀駅東側に「中心拠点区域」を設定し、市所有地である生涯学習推進ゾーンを活用して、生涯学習センター(地域交流センター)の建替え、サンフレアこが(図書館)の増床、弓道場の移転、駐車場等周辺施設の整備を行うことで市民の生涯学習活動を活性化させる。

地方都市リノベーションに必要となるその他の交付対象事業等

既存研修棟については老朽化が進んでおり、建物が古く不便なところもあるため、地域交流センター(生涯学習センター)として建替えを行うことにより利便性の向上を図る。

ゾーン周辺道路においては拡幅、歩道整備、地下排水路設置による道路排水機能向上などを実施することで、中心拠点区域の道路の価値、利便性を高め、JR古賀駅東側の歩道では車両、バス乗降箇所から駅舎までアーケードを設置することで、車両、バス、JR利用者の利便性に配慮する。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
(仮称)古賀市生涯学習センター(地域交流センター)の利用者数	人/年	生涯学習やまちづくり等の活動を行う施設利用者数	生涯学習活動等の利用者を増やし、地域力の強化を図る。開館後は従前の10%増を目標とする。(従前値はH21~23の平均)	145,000	H23	160,000	H28
(仮称)古賀市生涯学習センター(地域交流センター)に対する満足度	%	施設とその機能に対する満足度(アンケートによる)	現在の公民館の課題解決と生涯学習活動及びコミュニティ活動促進機能の充実を図り、施設に対する満足度を向上させる。	13	H19	30	H28
生涯学習機会の提供に対する満足度	%	生涯学習機会の提供に対する満足度(アンケートによる)	生涯学習ゾーン全体において、趣味・教養講座、生涯スポーツ・レクリエーション、文化・芸術等の活動しやすい環境づくりを図り、学習機会の提供に対する満足度を向上させる。	8.4	H19	17	H28
サンフレアこが(図書館)の利用者数	人/年	図書館施設の資料の貸し出し利用者数	図書館の蔵書スペースを増床することでサービスの向上と利用者の増加を図る。増床後は約15%の増を目標とする。(従前値はH23の値)	125,000	H23	135,000	H28

様式2 整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>・第4次古賀市総合振興計画(2012～2021)で掲げる古賀市における都市イメージ「つながりにぎわう快適安心都市こが」の実現を目指す。</p> <p>・中心市街地の市所有地に位置するリーバスプラザ(中央公民館)、リーバスプラザ研修棟、サンフレアこが(図書館、歴史資料館)、市立球技場、市民体育館、弓道場が設置されている約30,600㎡の区域を『生涯学習活動の拠点ゾーン』と位置付け、市民の生涯学習活動を支援するとともに、社会教育関係施設の有効活用や機能の充実を図り、多様な世代の市民が集い、学び、そして交流できる拠点を総合的に整備する。拠点ゾーンの整備を行うことにより、中心市街地の機能再構築、郊外への拡散防止、公共交通の利用促進に取り組む。</p> <p>※『生涯学習活動の拠点ゾーン』の総合的整備の主な内容: ○生涯学習活動を活性化することにより、地域交流が促進される拠点施設の設置(既存のリーバスプラザ研修棟を建替え、設置目的を改正し、機能の充実を図る) ○市内全域の市民が集い、交流できるよう、ゾーン内駐車場及び進入路の整備を実施し、快適な利用環境を確保する。 ○ユニバーサルデザインを採用し、世代間の交流や幅広い市民ニーズに対応できるよう整備する。</p>	<p>※関連事業(効果促進事業): (仮称)古賀市生涯学習センター-連絡通路整備事業</p> <p>高質空間形成施設(地方都市リノベーション事業): 市道古賀駅-五楽線アーケード 高質空間形成施設(地方都市リノベーション事業): 屋外トイレ ※関連事業(効果促進事業): JR古賀駅東口周辺土地利用基本構想策定業務 ※関連事業(効果促進事業): (仮称)古賀市生涯学習センター-駐車場・外構整備事業 ※関連事業(効果促進事業): リーバスプラザ出入口整備事業</p>
<p>・リーバスプラザ研修棟については、建設からすでに48年(昭和39年築造)が経過しており、老朽化はもちろんのこと、施設・設備の面においても、社会情勢の変化に伴う多様化する市民ニーズに対応できていない現状があることから、(仮称)古賀市生涯学習センター(地域交流センター)として建替え、市民が気軽に立ち寄り、学習活動等を行い、人や団体が交流でき、学習成果を活かす場や機会をコーディネートする機能を備えた『生涯学習活動の拠点ゾーン』の中核施設とする。</p> <p>※(仮称)古賀市生涯学習センター(地域交流センター)の主な役割: 「地域交流(コミュニティ)の促進」「多様な学習機会(学びの場)の提供」「生涯学習に関する情報提供・情報発信」「学んだ成果が活かせる市民活動</p>	<p>高次都市施設(地方都市リノベーション事業): 地域交流センター(生涯学習センター)</p>
<p>・第4次古賀市総合振興計画(2012～2021)では、「社会教育の振興」の政策の中で「図書館活動の推進」の施策として、市民の図書館利用の拡充を掲げている。</p>	<p>地方都市リノベーション推進施設: 教育文化施設(図書館) ※関連事業(効果促進事業): サンフレアこが設備整備事業</p>
<p>・第4次古賀市総合振興計画(2012～2021)では、「文化芸術の創造・継承」の政策の中で「歴史・文化の継承」の施策として、ふるさと古賀の歴史・文化に親しむ機会を増やすため、各種普及事業の充実を計ることを挙げている。</p>	<p>※関連事業(効果促進事業): サンフレアこが設備整備事業</p>
<p>・第4次古賀市総合振興計画の中で、「誰もが安全で安心して利用できるよう、道路や橋の補修・補強を行うとともに、道幅の狭い生活道路を計画的に改善する」という項目を、基本方針の1つとしている。</p>	<p>道路(地方都市リノベーション事業): 市道五楽36号線 道路(地方都市リノベーション事業): 市道五楽42号線 道路(地方都市リノベーション事業): 市道五楽44号線・庄46号線 道路(地方都市リノベーション事業): 市道久保線</p>
<p>・第4次古賀市総合振興計画の中で、地震による建築物倒壊などの被害から市民を守るため公共建築物の耐震化に努め、防災体制を充実させることとしている。また、風水害や地震等の災害危険性と防災にかかる課題等を把握し、安全で安心な地区の構築を進める。</p>	<p>地域生活基盤施設(地方都市リノベーション事業): サンフレアこがエレベーター耐震化 地域生活基盤施設(地方都市リノベーション事業): リーバスプラザ天井耐震対策 ※関連事業(効果促進事業): 地域防災対策調査事業</p>
<p>事業実施における特記事項</p>	
<p>【第4次古賀市総合計画(2012～2021)との整合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○都市イメージ: 「つながりにぎわう快適安心都市こが～豊かな自然と元気な笑顔に出会うまち～」 ・人やモノが集い、活気にあふれ、にぎわうまち ・自然と歴史・文化の魅力が未来へつなぎ、こころやすらぐまち ・こころ豊かに学び、人や地域がつながり、支えあうまち ・快適で住みやすく、安心して元気に暮らせるまち を目指す。 ○重点プロジェクト: 「活躍支援プロジェクト」 ・社会教育環境の充実や高齢者・障がい者の社会参加の支援に取り組み、みんながそれぞれの場で活躍できるまちづくりを推進する。 〔活躍支援プロジェクト推進施策〕 ・「社会教育環境の充実」「文化芸術環境の充実」「スポーツ環境の充実」「社会参加・生きがいづくりの支援(高齢者)」「社会参加の支援(障がい者)」 ○政策実現のための主な施策: 社会教育環境の充実 ・生涯学習推進拠点ゾーンとして、研修棟の建設を含めリーバスプラザ周辺の整備に着手する。 ○政策実現のための主な施策: 良好な市街地の形成 ・JR古賀駅周辺には、古賀市の玄関口として魅力ある地域となるよう土地利用を検討する。 <p>【古賀市生涯学習基本計画(2004～2013)での関連記述】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○総合的拠点ゾーンの整備充実 ・古賀市中央公民館とその周辺ゾーンの一層の整備充実に加え、効果的な事業展開を図るため、関連施設が取組むべき事業や貸館事業の立場、クラブや団体を育成する立場などから、その役割機能と効果的な事業展開について、行政内の部局間を越え、あわせて、官民が共働して検討する。 <p>【第2次古賀市生涯学習基本計画(2014～2023)での関連記述】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「生涯学習推進ゾーン」の整備と「生涯学習センター」の開設及び機能充実 ・「生涯学習推進ゾーン」の中核的な施設としては、市民が気軽に立ち寄り(集い)、学習活動を行い(学び)、他の団体や人々と交流し(交わり)、学習成果を生かす場やコーディネート機能を備えた施設として、新たに「生涯学習センター」を建設します。また、リーバスプラザやサンフレアこがと「生涯学習センター」をつなぐことで、各施設間の連携と有効活用を図り、新たな人の流れや活動の広がりを生み出します。 <p>【交付期間中の計画管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成24年度古賀市施政方針での関連記述: 生涯学習推進拠点ゾーンとして、研修棟の建設を含めリーバスプラザ周辺の整備に着手します。 ※施政方針として掲げた内容については、議会へ成果報告書として提出し、決算委員会において審議されます。 (仮称)古賀市生涯学習センター(地域交流センター)整備事業及び周辺施設整備事業は、毎年策定する古賀市施政方針の重要施策として位置付け、成果報告を作成・提出することで交付期間中の計画管理とする。 ○市の附属機関である古賀市社会教育委員の会議及び古賀市民館運営審議会等へ適宜、計画の進捗状況等を報告する。 	

様式3 目標を達成するために必要な交付対象事業等に関する事項

交付対象事業費	2,084	交付限度額	1,042	国費率	0.5
---------	-------	-------	-------	-----	-----

(金額の単位は百万円)

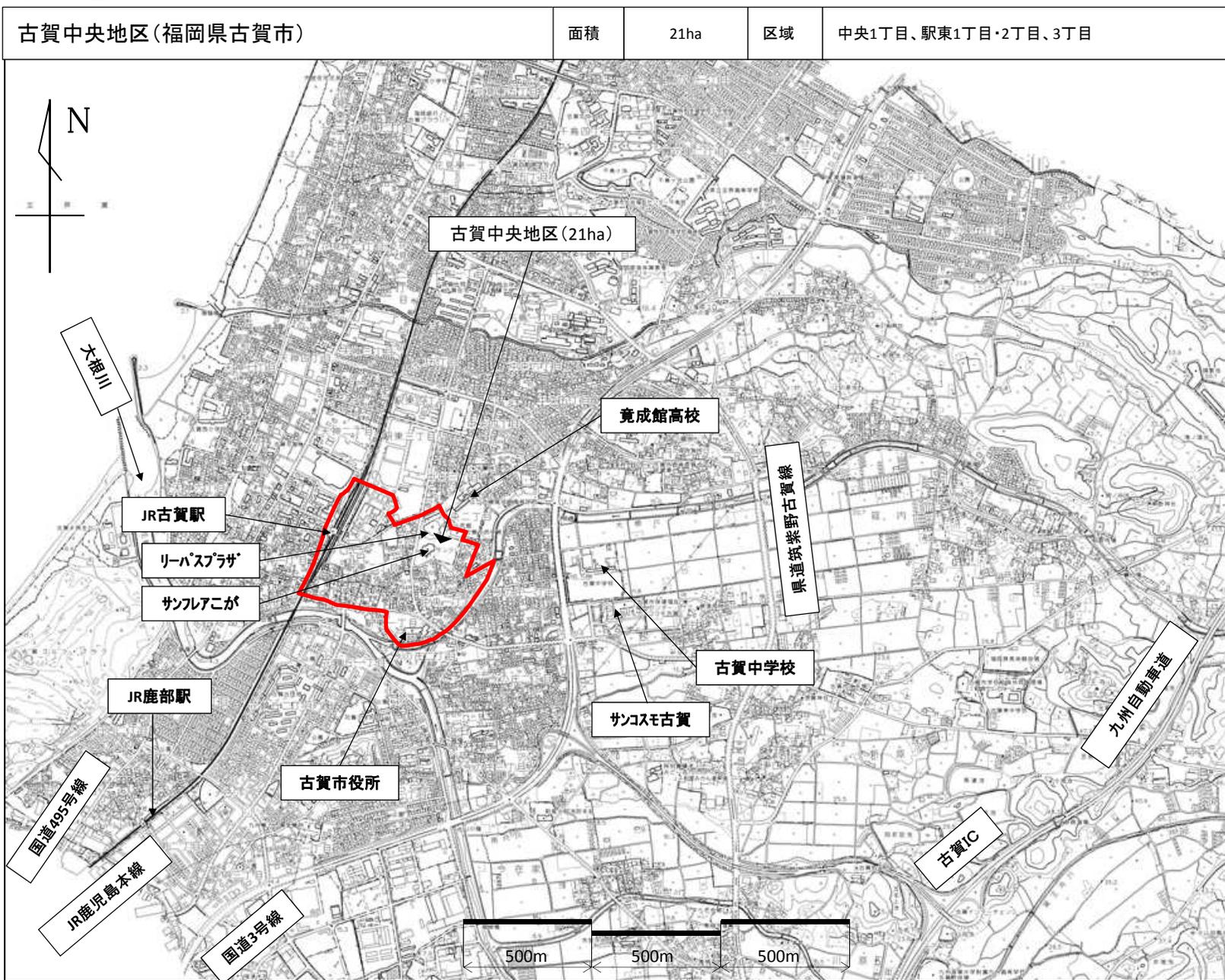
事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度					
道路(地方都市リノベーション事業)		市道五楽36号線	古賀市	直	L155m、W9m	24	26	24	26	20	20	20		20
道路(地方都市リノベーション事業)		市道五楽42号線	古賀市	直	L175m、W7.5m	24	26	24	26	24	24	24		24
道路(地方都市リノベーション事業)		市道五楽44号線・庄46号線	古賀市	直	L166m、W6m	24	28	24	28	153	153	153		153
道路(地方都市リノベーション事業)		市道久保線	古賀市	直	L70m、W9.75m	25	28	25	28	12	12	12		12
古都及び緑地保全事業														
河川														
下水道														
駐車場有効利用システム														
地域生活基盤施設														
高質空間形成施設(地方都市リノベーション事業)	屋外トイレ		古賀市	直	1箇所	24	28	24	28	8	8	8		8
高質空間形成施設(地方都市リノベーション事業)	市道古賀駅・五楽線アーケード		古賀市	直	L45m、W2m	24	27	24	27	24	24	24		24
高次都市施設(地方都市リノベーション事業)	生涯学習センター(地域交流センター)		古賀市	直	のべ床3,789㎡	24	28	24	28	1,686	1,686	1,686		1,686
高次都市施設(地方都市リノベーション事業)														
地方都市リノベーション推進施設	サンフレアこが(市立図書館)		古賀市	直	増床150㎡	25	27	25	27	72	72	72		72
地域生活基盤施設(地方都市リノベーション事業)	サンフレアこが(エレベーター耐震化)		古賀市	直	1基	24	27	24	27	13	13	13		13
地域生活基盤施設(地方都市リノベーション事業)	リハスプラザ(天井耐震対策)		古賀市	直	570㎡	26	27	26	27	72	72	72		72
住宅街区整備事業														
地区再開発事業														
バリアフリー環境整備事業														
優良建築物等整備事業														
住宅市街地総合整備事業	拠点開発型													
	沿道等整備型													
	密集住宅市街地整備型													
	耐震改修促進型													
都心共同住宅供給事業														
公営住宅等整備														
都市再生住宅等整備														
防災街区整備事業														
合計										2,084	2,084	2,084	0	2,084

提案事業(継続地区の場合のみ記載)														
事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度					
地域創造支援事業														
事業活用調査														
まちづくり活動推進事業														
合計										0	0	0	0	0

(参考)関連事業														
事業	事業箇所名	事業主体	所管省庁名	規模	(いずれかに○)				事業期間		全体事業費			
					直轄	補助	地方単独	民間	開始年度	終了年度				
社会資本整備総合交付金効果促進事業	サンフレアこが設備整備事業	古賀市	直	のべ床3,361㎡		○			25	27	232.5			
社会資本整備総合交付金効果促進事業	JR古賀駅東口周辺土地利用基本構想策定業務	古賀市	直	一式		○			26	26	5.9			
社会資本整備総合交付金効果促進事業	(仮称)古賀市生涯学習センター連絡通路整備事業	古賀市	直	のべ床44㎡		○			24	27	26.6			
社会資本整備総合交付金効果促進事業	(仮称)古賀市生涯学習センター駐車場・外構整備事業	古賀市	直	133,000㎡		○			24	28	139.2			
社会資本整備総合交付金効果促進事業	リハスプラザ出入口整備事業	古賀市	直	2箇所		○			26	26	9.2			
社会資本整備総合交付金効果促進事業	地域防災対策調査事業	古賀市	直	一式		○			26	27	0.1			
合計											413.5			

合計(A+B) 2,084

都市再生整備計画の区域



古賀中央地区(福岡県古賀市) 整備方針概要図

目標	生涯学習推進ゾーンの整備による人や地域がつながり支え合うまちづくり	代表的な指標	地域交流センター利用者数 (人/年)	145,000	(23年度)	→	160,000	(28年度)
			地域交流センターに対する満足度 (%)	13	(19年度)	→	30	(28年度)
			生涯学習機会の提供に対する満足度 (%)	8.4	(19年度)	→	17	(28年度)
			サンフレアこが(図書館)の利用者数 (人/年)	125,000	(23年度)	→	135,000	(28年度)

